

第1回地元資源利活用検討会 議事録

平成27年9月17日(月) 18時30分～

登別商工会議所 3階会議室

◆出席委員：協議会委員

松山 哲男	会長
斎藤 正史	副会長
高田 明人	委員
川田 弘教	委員
鈴木 高士	委員
望月 一延	委員
小幡 功	委員
藤田 康	委員
垣内 登紀子	委員
伊奈 綾	委員
千葉 洋子	委員
二瓶 秀幸	委員
米田 登美子	委員
杉尾 直樹	委員
井上 昭人	委員

検討会メンバー

寺島 真一郎
井元 耕
佐野 亮二
米澤 厚
荒川 昌伸
合田 富重
岩崎 隆二
小川 賢
計23名

◆事務局：商工労政グループ宍戸商工労政・新エネルギー主幹

奥田主査

竹中担当員

- ◆議題：(1) 登別市経済が抱える問題・課題の再検証について
(2) 第2回地元資源利活用検討会の開催日程について

望月委員

中小企業については、ITをもっと活用すべきという意見が出された。

漁業については、環境の変化により魚の種類が変わってきていることから、先々のことを考えていかなければならない。また、室蘭の栽培水産試験場が行っている活動に関する情報をもっと生かして有効利用していかなければならない。

工業については、新しい起業家を作り出すサポートを進めるためには、既存の企業が登別市に立地した理由を追及すべきであるという意見や、既存の企業に関連する企業が立地してくれると地域が活性化していくのではないか。市としても、特定の業種に集中して声をかけていくべきではないか。ただ、誘致するためのまとまった土地がないという現状があることも問題である。

医療・福祉については、従業員が長く勤められる環境が整っていないという現状があり、育成が十分に進まず、若年者も福祉業界を選びにくいという課題がある。

商業については、地元商店は、今まで地元相手の商売を行ってきたが、人口減に伴い売り上げも減少してしまう。観光客を見据えた販売をしていく必要がある。また、ただ物を売るのではなく、サービスを提供する場として差別化を図るべきである。

観光業については、登別温泉地区の観光客を他地域に連れてくる為の方法を考える必要があるが、各地域が観光客を受け入れる体制を整えなければ、経済循環には繋がらない。

観光の面でアイヌ文化をもっとアピールすべきであるという意見があった。

各産業の現状を踏まえて、お金を落とさせる仕組みだけを考えるのでは前向きな意見が出てこない。顧客を『わくわくさせる』ことを考えていけば、画期的なアイデアが浮かんでくる。このような意見が挙げられた。以上です。

(Bグループ)

川田委員

登別市経済全体が抱える問題・課題に着目して議論した。登別市には資源が沢山あるにも関わらず、それをアピールする場がないという点が最大の問題点であるという観点から、「資源を磨かなければ資産にならない」という考え方を持って話合った。資源を磨く機会を創出するというのが、今後求められてくるのではないだろうか。

今、登別商工会議所が中心となって取り組んでいる登別オアシス構想のように、資源を磨く場所、発信する場所を作ってはどうかという結論に至った。

(Cグループ)

藤田委員

地元商品は地元で消費するということが、外貨を獲得することが必要だということが話し合われた。そのためには、市や企業を含めた様々な箇所が連携を取らなければならない。

連携の問題として、登別温泉地区とそれ以外の宿泊施設の連携が無いこと、300万人の観光客が来ているのに、登別温泉以外には恩恵が無いことから、連携することにより、少しでも他の地区にお金が落ちるような仕組みを構築すべきである。

道の駅は登別市内には無いので、アーニスを活用するなどして、地元商品をPRする催事を行うなど、地元商品を地元の方々に理解してもらう取り組みを行うべきである。

温泉街では、ホテル内で食事まで完結してしまうが、ホテル以外の飲食店で地場産品が楽しめるような工夫が必要である。

企業のほとんどが中小企業だという現実のなか、同業者間の連携を図っていったらどうか。例えば、登別閻魔やきそばのように、同業者がアイデアを絞って取り組んではどうか。

登別市内の農業はほとんどが酪農であり、牛乳はホクレンに流れている形になっているが、地元

でチーズなどの加工品開発を行う、札内の景観を向上することで観光としての魅力を向上するなど考えられるだろう。

(Dグループ)

小幡委員

中小企業の現状として、企業間の循環が不足している、企業のアピールが不足しているという意見があった。一方で、グループ内では積極的に地域商店街を利用しているという意見もあった。

農業については、農地が少ない、従業員の将来性が見出せず後継者が少ないという問題がある中で、牧草には好評価が得られているという意見もあった。

漁業については、登別漁港ではスケトウダラがよく獲れるが、閑散期と繁忙期との差が大きいことから、夏の閑散期には収入が見込めないという現場の意見や、よく獲れるスケトウダラを活用するカマボコ工場を誘致すべきだという意見があった。

工業については、室蘭市という工業都市に隣接しているの、立地としては優れているのではないだろうかという意見、技術力はあるがPR力が不足して販売に繋がっていないという意見があった」。

医療・福祉業界については、病院は室蘭市に集中して立地している中、登別温泉はそれらの病院とは距離があるため、その恩恵を活かしきれていないのではないだろうか。

商業については、主婦は家計を考えると大手のスーパーに行ってしまうことが多い中、何とか域内で循環するように地場の企業から買っていただくことはできないだろうかという意見が挙げられた。

会長

以上で本日の協議を終了する。次回は、外部からファシリテーターを呼び、登別市経済の問題・課題を整理していく。お疲れ様でした。

(2) 第2回地元資源利活用
検討会の開催日程について